

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認試験

JA今金町

中野 公郎



①マット:左側 培土:右から4列目まで



②マット:手前



③マット区1



④マット・培土混合区



⑤全景



⑥育苗箱裏面

試験目的

水稲育苗用ロックウールマットの効果確認

試験作物 及び品種

水稲(品種 ゆめぴりか)

試験資材 及び数量(規格)

こめパワーマット薄物 13mm 90枚

慣行資材

通常培土

栽培方法

定植日

5月3日

移植日

5月7日

収穫日

8月

資材使用期間

5月上旬～6月上旬

試験区面積

1,580a

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

初期灌水を2Lかけないといけなと言われて、今まで使用していた播種機では対応できないため手で灌水した。

培土の場合は水をかける前にハウス内に並べているため、水をかけたマットはこの時は重いと感じた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

マットの方が初期生育がゆっくりであったため、最初のころは背丈に差がみられたが、途中から追いつき全く差がなくなった。移植後も差はみられなかった。

初期生育においては、若干の遅れが見られたものの移植までには、追いつき移植後も生育差は見られなかった。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】: 上述のとおり、初期灌水のため重いと感じたが、移植時は培土と比較して軽かった。

【問題点】: 初期灌水が大変。今回は試験だったため数量が少なかったが、実際に使用する場合は水量の調整を検討する必要がある。シャトル灌水も検討したい。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

はじめは薄いと感じたが問題なかった。

(5)促成・抑制効果について

初期生育が遅めだったが、後から追いついて、通常の培土と変わらない生育状況だった。

モニター感想

初期灌水をしてからハウス内に並べるので、水の分重く感じた。

培土の場合はハウス内で灌水していたので、この時は大変だと思った。

その後も、はじめは生育差が見られたが次第に追いつき、問題なく生育した。

移植時にはマットの方が軽く、1枚多く持つことができたため作業性はよいと思う。

シャトルでの初期灌水に対応しているか、確認してみたい。

JA担当者の感想(尊保係長)

生産者にとって省力化につながる資材であるためとても良いと思う。

灌水量などの注意点があるため、切り替えは慎重に行いたい。

今後の使用について

改良して欲しい。
更にコスト削減につながる資材。

1 栽培システム

2 施設システム

3 製地システム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 畝間資材

9 ICT機器

10 その他